

# 第40回 メディアとことば研究会

2013年6月8日(土)

於 慶應義塾大学(三田キャンパス)南校舎4F 445教室

(<http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>)

## 参加費無料

「メディアとことば研究会」HP <http://www.hituzi.co.jp/kenkyukai/media-kotoba.html>

※研究会・懇親会の参加希望、お問い合わせは、メディアとことば研究会事務局([medialalala@gmail.com](mailto:medialalala@gmail.com))までご連絡ください。

◎発表者 ……………白井宏美(慶應義塾大学)

白井研究会メンバー

ゲスト ……………榎本祐紀

(「人志松本のすべらない話」編集者)

コメンテーター ……榎本美香(東京工科大学)

## プログラムの進行

12:30 受付開始

12:45～12:55 総会

13:00～13:10

会の説明、発表者紹介

13:10～15:00

発表、データセッション

15:00～15:10 休憩

15:10～15:20 自己紹介

15:20～16:00

ディスカッション

16:00 お知らせ

16:30～懇親会(茶話会)

## ◎タイトル

# テレビメディアにおける出演者と編集者の共犯性

## ——「人志松本のすべらない話」のデータセッション

◎キーワード 共犯性、テレビメディア、編集、職人知

◎概要 「すべらない話」はなぜすべらないのか。萩原・白井他(2013)では、「すべらせない」ために笑いのプロである出演者が互いに共犯関係の中で物語りを作り上げる仕組みを示した。「共犯性」という概念により会話の展開を見ようとしたのである。しかし、テレビメディアという特性から、編集を無視することはできない。編集がどのように行われているのかについて知りたいと考えていたところ、この度、白井研究会では「人志松本のすべらない話」の編集を一手に担っていらっしゃる榎本祐紀氏にインタビューを行うことができた。今回は、このインタビューから分かったことを報告し、実際に映像を見ながらデータセッションを行う。編集者榎本氏の暗黙的な職人知に迫り、「すべらない話」が出演者と編集者の共犯性によって、どのように創作されていくのか、その仕掛けを読み解いてみたい。

学術論文をまとめませんか? ひつじ書房では言語学や日本語学、民俗学などの編集経験と技能により文学と言語、社会とコミュニケーションを横断する研究を支援します。5歩先に行く研究を出版したいと考えています。新しいタイプの紀要「接続」などもつくっております。学術同人誌の刊行もお引き受けいたします。お問い合わせはご遠慮なく<[toiawase@hituzi.co.jp](mailto:toiawase@hituzi.co.jp)>宛にメールでお願いいたします。

〒112-0011 東京都文京区千石2-1-2 大和ビル2F

TEL: 03-5319-4916 FAX: 03-5319-4617 e-mail: [toiawase@hituzi.co.jp](mailto:toiawase@hituzi.co.jp) <http://www.hituzi.co.jp/>

ひつじ書房

